

点数 各項目20満点									
No	タイトル	投稿者	評価者	佈さ	観さ	新しさ	ユーモアさ	意外さ	合計
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員A	16	15	16	17	16	80
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員B	13	14	14	13	12	66
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員C	16	17	19	18	17	87
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員D	7	15	14	17	14	67
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員E	16	18	20	18	20	92
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員F	18	16	18	16	17	86
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員G	16	18	18	15	17	84
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員H	15	20	15	15	18	83
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員I	13	13	13	12	11	65
265	ナメタジ	小日向まこと	一般審査員J	15	15	17	14	12	73
合計				145	161	163	160	148	777
書評									
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員A	12	12	11	13	12	60
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員B	13	12	10	10	12	67
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員C	17	17	18	18	18	88
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員D	17	13	15	15	13	73
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員E	15	15	20	15	20	85
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員F	17	14	15	16	17	79
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員G	18	17	17	16	20	86
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員H	14	12	12	10	14	68
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員I	19	19	19	17	18	92
274	オモイノカタチ	なかま	一般審査員J	14	12	12	10	14	68
合計				162	151	153	144	159	768
書評									
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員A	17	13	16	15	16	77
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員B	13	15	12	11	12	63
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員C	16	17	15	14	15	77
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員D	14	17	16	16	18	81
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員E	20	20	20	20	18	98
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員F	18	16	17	15	17	84
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員G	16	18	16	10	17	77
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員H	20	20	20	20	20	100
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員I	12	13	13	12	12	62
282	刑場の黒き四つ手	神崎マコト	一般審査員J	15	15	17	14	15	76
合計				161	164	152	137	147	761
書評									
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員A	15	11	12	15	12	65
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員B	12	14	13	12	14	65
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員C	17	17	17	15	17	83
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員D	15	13	13	14	15	70
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員E	18	18	18	18	18	90
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員F	15	15	15	15	15	75
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員G	16	18	18	18	20	88
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員H	12	12	12	12	18	70
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員I	14	13	12	12	12	65
268	連鎖反応	墓場少年	一般審査員J	17	17	17	18	15	84
合計				156	147	151	146	146	746
書評									
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員A	18	16	17	17	18	86
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員B	15	13	11	13	13	65
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員C	16	17	17	17	16	83
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員D	16	16	16	16	16	80
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員E	10	5	15	10	10	50
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員F	17	15	14	12	14	72
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員G	17	17	17	15	10	76
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員H	10	15	15	15	10	65
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員I	12	11	12	12	12	64
263	チェルシー	春粉亭 (ばるぶる) きなこ	一般審査員J	18	15	18	15	18	84
合計				143	137	143	131	153	707
書評									
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員A	18	15	18	16	18	85
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員B	12	13	10	10	10	55
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員C	17	16	17	16	17	83
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員D	12	13	15	14	15	79
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員E	15	14	14	14	15	76
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員F	18	16	16	16	15	81
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員G	15	18	17	15	16	83
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員H	20	20	10	15	10	80
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員I	14	13	12	11	12	62
278	カエッソサマ	半分王	一般審査員J	17	15	15	10	15	77
合計				152	149	137	128	139	705

No	タイトル	投稿者	評価者	怖さ	脱さ	新しさ	ユーモアさ	意外さ	合計	書評
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員A	15	14	13	12	16	70	幼少時に話をしてしまっただけ、黒い何者かに付きまわってしまった話話はやある話だと思ってしまいました。そこまで怖くないなって思っただけ、母親がなくなっただけ後に出てきた母親の顔を黒い何者かが出てくる描写はちょっと怖いなと思いました。家や学校も怖いなって思うくらい、主人公がミキさんに囚われたかたこと何だろうか。ここはちょっと気になるな。
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員B	13	13	12	12	13	63	人の身体を奪う者には、霊は勿論のこと悪魔や妖怪などいろいろいると思いますが何に身体を奪われたんでしょうか。何十年もかけてゆっくり確実に相手に奪っていったという事は、その霊には無意味な苦しみを感じます。永遠の存在から命の奪取がある者になりたけと思うのは永遠の中にも、何も得ることが出来ないから、そこを抜け出したんですかね。
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員C	16	15	16	15	16	78	文章としては綺麗な読みやすさが伝えている部分が多いですがストーリーに入り込むのに時間がかかりましたが、真っ黒な人影の描写が生き生きと自分に感じさせる描写がいくつかあって良かったです。描写が下がる事によって恐怖演出は生きていた。長い月日を繰り返すという事事は単純に怖かったです。
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員D	16	14	17	15	12	74	ミキさんの記憶にある不気味な体験と一緒に身体を奪っているような感じが書いていて、とても読める気がしました。幼少期に起こったものの、一瞬に感じてしまった描写が徐々にミキさんに似ていくという描写が少しずつ取れ取れと出てくる感じが面白いです。段階を経て出てくる恐怖を考えただけで、読んでいてもいられない気持ちになりました。ただ、思わぬところに登場した二人の登場人物の存在が一つ一つの恐怖を醸成して、一捻りあったものの、駆け足の展開で理解ができまわってしまった。それまでが丁寧に描かれていただけに余計落差を感じて物足りなくなりました。長い長い序章のショート作品を描いてみるような、何とも言えない後味です。
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員E	10	10	10	10	10	50	何年も経って自分が奪われていくのは面白いと思いました。最初に簡単に名前を覚えてしまった事からまさか自分自身が奪われてしまうとは...。簡単に名前を覚えてはいるけれど、幼糖類のくさいのどだったから条件反射で覚えてしまふなあと思いました。
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員F	15	13	14	14	15	71	お話、面白く読ませてもらいました。友人のミキさんが幼少期に遭っている頃から起った出来事。最初は赤ん坊の泣き声のまじりの声のだったのが、ある日、幼い子供が泣き止まず口を開き名前を聞いてきて、あまりのしつこさから恐怖の喉がわきあがり、それを殺す。その後、恐怖を感じてミキさんに似たような顔が現れ、徐々にまじり形を成していく過程は不気味で怖い。そしてマネキンのような無感情で、ただ自分の顔、声をしたそのついでを想像すると益々怖くなる。結局、二年後に再会したミキさんは、元の友人のミキさんじゃなくなり、成り代わってしまったのか、と一瞬思ったのだけど、気になったのが、エミさんやるなあ、のセリフとか、エリさんはどこない笑顔で...とか、名前が変わっている？それは聞かずに従業者が全部ミキさんと本の成り代わり？最後はちょっと意外な感じが、軽微なですが、私の理解が間違っていないければ、ミキさん、エミさん、エリさん、と3人のミキさんがいるという事なのか、と思いました。違うのかな？
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員G	15	15	13	10	14	67	物凄く怖いというよりは、じわじわとくる怖さ。でも状況描写や会話もとてもリアルで読者の心も自分自身が感じているかの様な感じだ。楽しめたお話でした。読者も幼少期から現在までと長いんですけど、会話や店内の様子だけでも読者の感情を掴むのに十分な描写が感じられました。やっぱり後半、そして最後でよ。読者の感情を掴むのに十分な描写が感じられました。お返しのMAXでした。お返しのMAXでした。読者の感情を掴むのに十分な描写が感じられました。
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員H							赤ちゃんといた声の「ナニカ」が時間の経過とともに成長しつづ要求も増えていく...まさかFoot-in-the-Doorですぬ顔面描写など淡々と進行していく様子は彩度かことん低く不気味さを感じました。肉体は誰も死なないけど、魂は死んでしまふ、意味が不明いすばらしい怪談に仕上がっていると思います。これぞ怖い話です。
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員I	18	15	18	15	15	62	あーミキさんって面白い人を入れ替わってしまったんだとしたんですが、どうしてそれが起きたのか？読者も面白くないですね。
264	フットインザドア	でんごうさん	一般審査員J	18	18	15	15	15	61	幼少期の時から徐々にミキさんになるようになって、取って代わらうとしているナニカが、とても怖かった。ナニカもそれ以上に自分に対して、恐怖を感じていないミキさんは、すでに取り込まれているのだから恐怖を感じることなんてなかったと思う。ラストの緊張感合点に聞くと肉体内の別のユーモアさがあり、味の变化がナニカを意味しているのかが読者に考えさせるところも良かったです。

No	タイトル	投稿者	評価者	怖さ	脱さ	新しさ	ユーモアさ	意外さ	合計	書評
257	教う者	きみちゃん	一般審査員A	13	11	12	13	12	61	美味い話には必ず裏があるとよく言われるのですが、転校生に対するいじめをする友達、親で見てあげてくれる先生、逃げた主人公の父親。主人公の周りにいる人の感情を掴むのに十分な描写が感じられました。そして、友達が閉じた後は役割を果たしたとして、主人公と入れ替わってしまう、この主人公と同じことをやるんだらうな。さっと。
257	教う者	きみちゃん	一般審査員B	14	10	10	10	12	56	響くと思いがわからないものも入れるには結構簡単な事だと思います。子供達の遊びや会話もリアルで読者の心も自分自身が感じているかの様な感じだ。楽しめたお話でした。読者も幼少期から現在までと長いんですけど、会話や店内の様子だけでも読者の感情を掴むのに十分な描写が感じられました。やっぱり後半、そして最後でよ。読者の感情を掴むのに十分な描写が感じられました。お返しのMAXでした。お返しのMAXでした。読者の感情を掴むのに十分な描写が感じられました。
257	教う者	きみちゃん	一般審査員C	17	17	17	17	16	84	これとって書いてくれました！そうすると、まじりとやりました。最初から最後まで一貫して書いてくれました。そして、恐怖を知った上で改めてもう一度読み直したように出来た納得感で、それだけでも不気味さ、それに対して明らかに対比の「クロ」という存在。そもそもの名を呼ばれたからこそ、理屈は怖さの瞬間に入り込まれてしまったような感じがします。ただ、この子は本当に救われて救いかけたのでも悲しいです。ただ誰かに助けて欲しかっただけだとしても、人の不幸の下に居て幸せは認められない。「人の不幸は福二つ」そんな書評が書きたいと思いました。
257	教う者	きみちゃん	一般審査員D	17	18	18	18	17	87	素晴らしいので読んでみました！最後の展開にそっくりな鳥が立たました。心優しい転校生は一体何者だったのでしょうか。怪異のような存在かと思いきや、家がめっちゃ怖い感じがする。これらとも不気味さ、それに対して明らかに対比の「クロ」という存在。そもそもの名を呼ばれたからこそ、理屈は怖さの瞬間に入り込まれてしまったような感じがします。ただ、この子は本当に救われて救いかけたのでも悲しいです。ただ誰かに助けて欲しかっただけだとしても、人の不幸の下に居て幸せは認められない。「人の不幸は福二つ」そんな書評が書きたいと思いました。
257	教う者	きみちゃん	一般審査員E	10	10	10	10	10	50	「教う者」も面白いという内容と、描くのは面白くも思いませんが、身代わり系の内容はわりとあるのかな。そして、アコちゃんが何者だったのかが、よく分かっていませんでした。最初アコちゃんの名前が明らかになったのはなぜ？転校したのになんでクロと名前をアコちゃんから変わらなないのか、クロと身代わり話と謎のアコちゃんの話と二つの話が混在してアコちゃんの話が完結してない感じがしました。
257	教う者	きみちゃん	一般審査員F	15	14	14	14	13	70	この作品も入れ代わり、という成り代わりといった話になりますね。アコちゃんは、周囲からの虐待やクラスメイトからの悪言の連続で苦しんでるアコちゃんを救ったのは誰か。それは転校してきたアコちゃんだったのか、それとも本当はアコちゃんではなくて、クロの方だったのか...。教うは果敢と違っているのでは、とタイトルで思いましたが、やはりそうでした。アコちゃんには心が救われたただけなら良かったのに、クロに身体まで奪われてしまった。クロの代わりに暗闇の中に閉じ込められてしまったアコちゃんも、またクロと同じように教うをやる者が現れたらその者に成り代わる事によってその闇の世界から救われるのか...
257	教う者	きみちゃん	一般審査員G	16	16	15	10	17	74	話の内容が面白くて引き込まれながらの完成でした。恐ろしい怖さではないものの、不気味な怖さという気持ちの悪い怖さを感じたお話でした。教うモノは確かに教ってほけたりけど、代償が代わらないうから、そして運搬していくんだらうなあと思うのでね。女子高生の関係やアコちゃんとの間の描写もリアルで、怖さに深みがたかくなとも感じました。最後もなかなかのバトルエンドで、色々想像がついてたものの、楽しめたお話でした。
257	教う者	きみちゃん	一般審査員H	10	15	10	5	15	55	怪談の要素で面白いという作品。「すくう」が「果敢」事は想像出来たのですが、どんな風に果敢わっていくのか想像を膨らまして読みました。想像していたより早く、ドラマティックなのに、話の流れが良かった。怖い話に、そんな感想を持ちました。アコちゃんの問題が個人的に気になりました。従業者の視点でのストーリーも興味深そうですね。
257	教う者	きみちゃん	一般審査員I	13	12	12	11	13	61	すくう... 最後はあーそのすくう...ってなりました。よく考えられている。お友達と話を聞いてしまったら、今の様子ではわかんないみたいで、その謎が解けないのが怖いよね。
257	教う者	きみちゃん	一般審査員J	18	15	15	13	18	79	面白い話を叶えたいに徐々に魂が奪われていくという非常に興味深い話だった。最後にスタッフのダブル・ミーニングを明らかにしたところと結果がリンクしたところが非常に面白かった。
合計				143	138	133	118	145	677	